すべきとの結論に達した.

25. ^{99m}Tc-コロイドスキャンと ^{99m}Tc-HIDA スキャンで肝イメージ上，所見の相違を呈した肝内胆管癌の一例

鹿熊 一人 (能登総合病院・放)
伊東 哲郎 (同・内)
宮崎 吉春 井上 寿 塩崎 潤 (同・RI)
油野 民雄 (金大・核)
松井 修 (同・中放)

症例は63歳女性．既往歴として高血圧性心疾患，慢性肝炎を指摘されており，全身倦怠感を主訴として来院．検査成績では，肝胆道系酵素の軽度上昇と，血沈の軽度亢進を認める以外に特記すべきことは認めず．外来超音波検査にて，右肝内胆管枝の軽度拡張像と，肝門部の小腫瘤陰影を認め，肝内胆管癌を疑い精査した．^{99m}Tc-HIDA スキャンでは，肝への集積ならびに，右肝内胆管枝の描画を認めず，右肝内胆管閉塞の所見を呈した．^{99m}Tc-スズコロイドスキャンでは，び慢性肝疾患の像を呈したが，特に Defect の所見は認めなかった．

本邦における区域性胆管閉塞の例は，主に肝内結石が多く，肝内悪性腫瘍による報告はきわめて稀であること，また，^{99m}Tc-スズコロイドスキャンと，^{99m}Tc-HIDA スキャンで所見の相違を呈した，悪性腫瘍による区域性胆管閉塞の例が，まだ Gamnt にも記載されていないことより報告した．

26. ^{201}Tl 経直腸的門脈循環検査のシミュレーション：コンパートメント解析の試み

中嶋 憲一 利波 紀久 久田 欣一 (金大・核)

^{201}Tl の直腸内注入法により算出される心/肝摂取率比 (H/L) は，門脈・大循環系のシャントを反映する指標として臨床に応用されている．しかし，^{201}Tl の体内での動態には不明な点もあり，H/L とシャント率との関係も明解にされていない．そこで，本検査における ^{201}Tl の動態を3コンパートメントまたは4コンパートメントと仮定して，シミュレーションを行った．3コンパートメントは，直腸，肝，心の3臓器に設定し，おのおのの K 値 (あるいは半減期) を変化させたときの H/L に与える影響を検討した．さらに，その他の臓器を代表する第4のコンパートメントを設定した場合についても検討した．この結果，1) H/L は ^{201}Tl を直腸内に注入後，3時間以内では，わずかに増加するものの，ほぼ一定とみなせること，2) 直腸からの吸収の速さは，H/L にほとんど影響しないこと，3) シャント率が増加すると H/L は指数関数的に増加することが推定された．しかし，コンパートメントの数，各臓器の K 値 (または半減期) の設定，シャント経路など，問題点も多く，今後実験結果などとも併せて，さらに検討予定である．

27. 膵疾患における膵シンチグラフィの評価

吉田 宏 松尾 定雄 矢橋 俊丈
岩田富貴子 金森 勇雄 (大垣市民病院・放)
中野 哲 綿引 元 武田 功
小沢 洋 杉山 恵一 渡辺 幸夫 (同・消)
佐々木常雄 石口 恒男 (名大・放)

今回，われわれは，151例の膵シンチグラムを疾患別に検討し，膵シンチグラフィの評価を行った．

(1) 膵シンチ上，明瞭な描出を示したものは，良性疾患に41例中27例 (65.9%) と多く，膵疾患，特に膵癌では18例中1例 (5.6%) と少なかった．

(2) 膵シンチ上，全体的に淡い描出を示したものは，良性疾患 (14.6%) に比し，膵炎 (28.0%)，慢性膵炎疑診群 (20.0%)，糖尿病 (27.8%) に若干多い傾向を示した．膵癌では18例中1例 (5.6%) と少なかった．

(3) 膵シンチ上，全体欠損を示したものは少数ではあるが膵癌 (16.7%)，膵炎 (16.0%)，悪性疾患 (10.3%) にみられた．

(4) 膵シンチ上，部分的な描出不良を示したものは各疾患とも良性疾患 (14.6%) と同程度の頻度であった．

(5) 膵シンチ上，部分欠損を示したものは，膵疾患，特に膵癌 (61.1%) に多かった．

(6) 膵シンチ上，全体的あるいは部分的に欠損像を呈した症例は，ERCP, CT, US により，同部位に形態異常を認めるものが多かった．

(7) 膵癌のシンチグラム像は，頭部癌では全体欠損を，体部癌では，尾部欠損を，尾部癌では尾部欠損を示す傾向にあった．

Presented by Medical*Online